

早すぎると思わないで！ 絵本の読み聞かせは0歳から

家庭での絵本の読み聞かせの大切さをアピールするため「よい子に読み聞かせ隊」を結成し、全国各地で160回以上もの講演を行っている
直木賞作家の志度田景樹さんに関話をした。

Topic



志度田景樹さん

1940年静岡生まれ。80年「黄色い牙」で直木賞受賞。99年より絵本の読み聞かせを開始、自らも絵本や児童書を多数執筆。ツイッターも人気でフォロワーは22万人を超える。ツイート名言集「入って、みな最初は石ころだもの」(ポプラ社)好評発売中

「楽しみながら読むことと
続けることが大切です」

「絵本の読み聞かせは、親が子どもに愛情を伝える一番いい方法です。僕自身も母親からいつばい読み聞かせを受けて育ったんですが、そのことが今も非常に心地よい記憶として刻まれています。読み聞かせを行うと、親も子どもも感受性が豊かになり、親子の心に懸け橋が生まれます。その橋を通して親の愛情が子どもにも注がれていく。0歳の赤ちゃんだってそれを本能的に感じて安心します。安心感は親への信頼感に繋がり、何十年経っても消えない親子の絆になるんです。

家庭で読み聞かせを行うとき大切なのは、義務感とか教育に効果的だとかは抜きにして、お母さん自身も

楽しみながら読むことと、飽きずに継続させること。自分のやりやすい方法で1年も続ければ、そのお母さんにしか出せない個性や持ち味が出てきます。アドリブや擬音などをどんどん入れてやってみてください。ただし苦手な人は、無理して声色を変えて読んだりしなくても大丈夫。0歳児だって『お母さん、無理してるな』って、見抜きますから(笑)。馬のセリフもつぎのセリフも同じ声色でいいので、素直に読めばいいんです。絵本を読むと、お母さん自身の心も洗われて、清々しい気持ちになるはずですよ。

読み聞かせは、『0歳児にはまだ理解できないだろうな』と考えずに、できるだけ小さいころから始めてください。0〜1歳児には、擬音が入っていて絵がシンプルな作品がおススメですが、物語が理解できない赤ちゃんでも絵には反応しますし、何が描かれているか認識できれば、3〜5歳向けの絵本でも問題ありません。年齢にはこだわらず、幅広い視点で選んでみてください」